

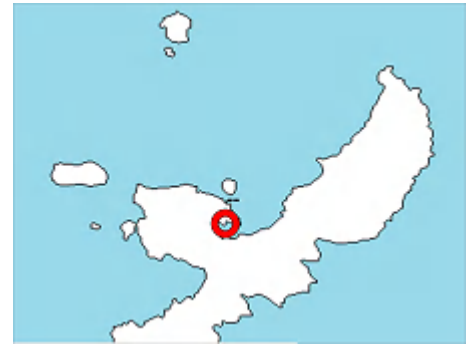
匿名

1923(大正12)年12月生まれ

当時の本籍地 福岡県

海軍

所属 第27魚雷艇隊



戦地: 今帰仁村(なきじんそん)、八重岳

●1944(昭和19)年10月15日 佐世保海兵団に入団。

●1945(昭和20)年3月ごろ 第27魚雷艇隊へ。

沖縄北部運天港に基地があり、魚雷の運搬、装填を担当していた。

ある時近くにグラマンが二機墜落、一方の操縦士が生きていたが地元の女性達が集まって棒で殴り殺した。

魚雷艇は一隻が出撃、駆逐艦を雷撃するのを山の上から万歳を叫びながら見た。しかしすぐに相手の駆逐艦の魚雷を受けて沈没した。

運天港を含む八重岳のある半島全体を1400杯の米軍が囲み、向かいの伊江島は住民を含め全滅したが、こちら側から砲が撃たれる事は無かった。基地は激しい空爆により壊滅。魚雷艇の出港は先の1隻のみで残りは出港しないまま基地を自ら爆破した。部隊は八重岳山中に移動。当初は山中で米軍との激しい撃ち合いがあったが、武器の能力に大差があり部隊は次第にバラバラになっていった。更に食糧も少なくなったため分かれて行動する事となった。

激しい撃ち合いの場を、民間人がもっこを持って何もしていないようにすっーと通っていく。スパイではないかと疑った。殺しはしなかったが山中の木に縛り付けて立ち去った。

雨季になる頃(4月末～5月初頭)には一人きりになっていた。毛布を屋根のようにしてしのいだ。武器は米兵の死体が持っていたものを取って使っていた。日本のものより性能は良く、米軍は銃弾をあちらこちらに残していたので弾にも事欠かなかった。

米兵は山中を歩くとき50メートルぐらい置きに立ち止まり、360度銃を撃って安全を確保していたが、慣れれば地面に寝て待っていれば良いだけで、どうという事は無かった。

時々山中で何人かの日本兵と一緒にになるとそのメンバーで食糧確保のため米軍への切り込みを行った。手に入れたものはくじで分けたが、英語が読めないので開けてみると油の缶でがっかりするような人もいた。

集落には密告されることを恐れあまり降りないようにした。

強姦されたと思われる女性の裸の遺体をそこで見かけた。小高い開拓家の一軒屋で「毎日来る米兵に娘が犯されているので何とかして欲しい」と頼まれ、待ち伏せをして2名を射殺したが1名が逃走。翌日食糧をもらおうと思って同じ家に行くと、家は焼き払われていた。

●1945(昭和20)年8月17日 負傷して捕虜に

辺野古の集落に食糧をもらいに降りたところ、「もう戦争は終わっているから投降するよう」勧められた。他の2人は「伊藤さんの言う通りにする」と言う。一億玉砕と言っていたのにそんなバカな事があるもんかと思い、断った。

遠くでジープの音がする。「密告された」と思ってすぐに集落を離れた。待ち伏せされているだろうと思い一番後ろを歩いていたが、同行の陸軍兵士が立ち止まり「伊藤さんが一番階級が上なのだから先頭を歩いて下さい」と言う。「陸軍と海軍が混じって階級もあるか」と言ったが一步も動こうとしない。諦めて順番を入れ替え5～6歩歩いた時、斜め後ろから銃弾が来た。

トラック2台から降りた2～30人の米兵に撃たれ、後ろを歩いていた2人はパタッと倒れた。私は腕に一発、足に一発銃弾を受けたが、そのまま目の前の川に飛び込み、対岸まで泳ぎきった。腕は貫通して血も出なかったが、左膝下には弾が入った大きな穴があったが出口が無い。草の茎を穴から入れてみると弾に当たってコツコツ音がした。

軍服を野良着に着替え、八重岳の山中を名護に向かった。名護近くで米兵に会い、傷を見せろと言う。膿がスタスタ落ちていた。すぐにジープが呼ばれ名護の米軍陸軍病院に運ばれた。治療、介護は大変手厚く、米兵はこんなものかと驚いた。

●1946(昭和21)年 1年後に復員

(取材日:2007年12月10日)